

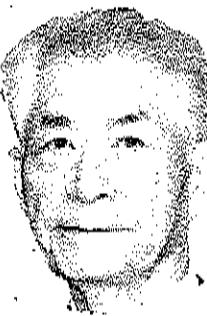
2/23年版

「学術会議独立性」が壊す 「法改正」

日本のノーベル賞受賞者ら8氏が連名で、2月19日、政府が今国会で狙っている日本学術会議法「改正」は学術会議の独立性を毀損する恐れがあるとして、再考を強く求める声明を出しました。



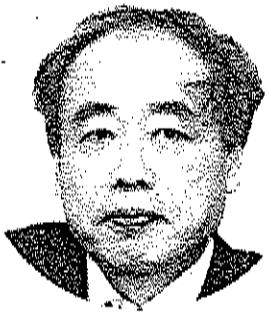
ノーベル賞受賞者ら8氏声明



本庶佑氏



野依良治氏



小林誠氏



大隅良典氏

声明を発表したのは、天野浩（物理学賞）、大隅良典（生理学・医学賞）、小林誠（物理学賞）、白川英樹（化学賞）、鈴木章（化学賞）、野依良治（化学賞）、本庶佑（生理学・医学賞）、森重文（数学のノーベル賞）と呼ばれる「フィールズ賞」の8氏。学術会議の梶田隆章会長（物理学賞受賞者）が22日、都内で開いた同会議の幹事会で、この声明を紹介しました。

声明では、各國のナショナルアカデミーは、その国の学術を代表するひともに世界の学術界と連携し「人類の福祉に貢献する国際的公共財を構成」していると強調。先進国政府は、ナショナルアカデミーの活動の自律を尊重し介入しないことを不文律にしてきたと述べ、日本での首相による学術会議の会員任命拒否を「大変憂慮」し、今回の「法改正」に「大きな危惧」を抱いていると表明しています。

これは内閣府と学術会議との二者の問題ではなく、「学術の独立性」といった根源的かつ重要な問題につながる」と指摘。学術会議がナショナルアカデミーにふさわしいものとなるよう、政府が慎重な「法改正」を再考し、学術会議との議論を重ねるよう「強く希望」を示しています。